

杉浦明平の世界

「みんぺーさん」の記憶と魅力

二〇二〇年

七月十日〔土〕ヨリ八月二十二日〔日〕マデ

開館時間 午前九時ヨリ午後五時

(入館は午後四時三〇分マデ)

休館日

毎週月曜日

ただし、七月十九日は開館し、
七月二十日は休館します。

観覧料

◆一般 六〇〇円(四八〇円)

◆小・中学生は無料

()内は二〇名以上の団体割引料金です。

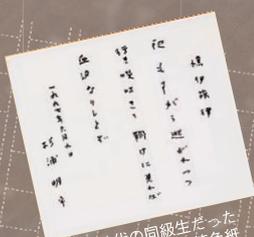
主催 田原市博物館財団法人華山会
後援 愛知県教育委員会・NHK名古屋放送局



1997年 書齋にて(水谷積男氏撮影)



1929年
豊橋中学校



一高時代の同級生だった
伊藤律を歌った直筆色紙



立原道造詩集「さくらん」



未完映画シナリオ
「種子と畑」



立原道造



【アララギ】土屋文明(左)

田原市博物館では、2001年に亡くなった郷土を愛した小説家杉浦明平の回顧展を開催します。杉浦氏が亡くなり、9年を過ぎ、来年3月で10年を迎える今、現在残された手紙や原稿、発刊された本などを通して、文学・評論・エッセイなどで、人間社会を見極めた「みんぺーさん」を回顧する機会したいと思います。

杉浦明平は、1913年(大正2年)6月9日、愛知県渥美郡福江町(現田原市折立町)に生まれました。旧制豊橋中学を経て第一高等学校に入学、「アララギ」に入会し、土屋文明に師事。東京帝国大学国文学科に進み、立原道造や寺田透らと同人誌などを創刊し、交流した。大学卒業後、イタリ・アルネサンス研究のため、イタリ・ア語を習得、翻訳・編集の仕事に携わった。第二次世界大戦中、郷里に戻る。戦後、共産党に籍を置き、渥美町議会議員を2期務めた。その間の見聞を元に、海苔養殖業者の利

権争いを『ノリソダ騒動記』というルポルタージュで発表、その後も共産党員の活動記録『基地六〇五号』、映画化もされた『台風十三号始末記』、『夜逃げ町長』などの新スタイルの記録文学が評判になり、注目を集めた。1962年(昭和37年)に新日本文学会内部の対立で共産党から離れた後は、畑仕事にいそしみながら、郷土の渡辺崋山をはじめとした江戸時代の文人を取り上げた小説や評論、食べ物エッセイ、翻訳などの多分野で活躍した。『朝日ジャーナル』に連載した『小説渡辺崋山』で1971年に毎日出版文化賞、1977年に中日文化賞、1995年に『ミケランジェロの手紙』の翻訳で日本翻訳出版文化賞の特別功労賞を受賞した。火力発電所増設反対問題を契機に、1981年からは、地元の友人たちと読書会をし、地元の人誌への寄稿も行なっている。1989年には、1か月に1万ページの読書をしたことで集まった蔵書の一部を渥美町図書館へ寄贈した。



渥美半島のなつかしの風景写真



福江細胞機関紙「新渥美」

主な出品資料

- ◆天折の詩人、立原道造に贈った「少年歌集1931」や立原道造との心温まる往復書簡
- ◆第一高等学校、東京帝国大学時代に交流した人々からの手紙、ハガキ等

期間中の催し物

展示解説

7月10日〔土〕・8月7日〔日〕 午前11時から
|博物館内 | ※観覧料が必要となります。

同時開催

渡辺崋山を知る | 特別展示室

崋山筆重要文化財板絵墨画馬図・自筆手本(忠孝)・自筆退役願書稿・椿椿山筆麴町一件日録などを展示します。

※8月24日〔火〕～27日〔木〕、10月19日〔火〕～22日〔金〕は展示替のため臨時休館します。

田原市博物館 ☎22局1720
http://www.taharamuseum.gr.jp